



みんなの文芸

俳句 ことぶき俳句会

雪明かり赤信号の道抜ける
不器用に丸葉こぼす夜のしづめ
戸が閉まる音の聞こえて賀状来る
雪降るや夜の鉄瓶しんしん啼く
春立つや句を詠む気力なくなりぬ
オリオンの下を風吹き流水来る

川柳 浦幌川柳会

幸せな誤算八十路の作業服
鏡台に静かな葛藤置いて聴く
命あらば蒔いてみんとて種をとる
奇跡など縁無きことと我は老い
我が姿月影愛しドラム缶
川柳を愛して生きてつつがなし

川柳 上浦幌句の会

ゆつくりとツルツル路面の歩き方
北風の強き寒さが身にしみる
折り紙も指先不作為一苦勞
手を握り長命祈る友は逝く
雀二羽親子か夫婦か恋仲か
寒い朝福祉灯油の暖かさ
握手しよう手を出し友と長電話
デイサービス忘れた頃に持った筆

短歌 心友愛会

今年こそ梅や桜が見えるよに
白い羊で跳ねて歩こう
友がいて支えてくれる会があり
感謝の一年楽しく過ごす
年令が増す度ごとに鈍くなる
わが身にカツを入れつつ歩く
今日も雪空を睨んで冬ごもり
残り物集めて一日過ごす

晴れ着きて成人式に記念写真
美しく育ち孫の笑顔は
賑やかに今年も始まる心友会
皆の笑顔で何か出来るか
友を呼びお茶会始め漬け物が
だいの好物話も弾む

悪天氣犬の散歩は儘ならぬ
犬にせがまれ重き足で
誇らしい善き人々に恵まれて
我今ここに生いしているに
野ざらしの吹雪の中に立つサイロ
住む人も無しや離農村は
安らかな笑顔浮かべて寝てる
この幸福を我亡き後も

編集後記

■2月14日に開かれた、子どもたち待望の冬のイベント「しゃっこいナイト」は好評を集め成功を収めました。たくさんアイスクャンドルや、最後に打ち上げられた花火を見ているうち、2009年夏に行われた浦幌高校最後の学校祭を思い出しました。

■この町で学ぶことを選んだ最後の14人の生徒が、町を盛り上げようと、卒業生や旧上浦幌小児童と協力してパレードをし、浦高グラウンドで打ち上げた花火。彼らが守ろうとした青春の光が、地元に戻ってきたり、移り住んで来た同世代の若者の力も得て再び輝いた。そんな気がして胸が熱くなりました。

■今回の実行委は35歳以下で構成。彼らの今後の活躍を見守りたいと思います。

■掲載された写真は、差し上げますので(本人または家族)、お気軽にご連絡ください。